

「専修コース」について

■ 「研究者養成コース」と「専修コース」

既存の「研究者養成コース」に加えて、「専修コース」を平成 20 年度より導入しました。従来から、学習院大学経済学研究科では社会人入試を行い、博士前期課程修了（修士号取得）後は社会で活躍することを想定する教育を行ってきました。「専修コース」は、これを拡大し、社会人以外の入学者にも広く適用することを目指しています。「専修コース」修了後は、2 年間の教育で学んだ知識を生かし、公務員としてあるいは実業界で働くことが期待されています。コース終了後、社会で活躍する人を対象としているので、「専修コース」から博士後期課程への内部進学はできません。

「専修コース」の特徴

集団指導体制

入試時に示された希望研究分野を基に、入学時に 3 名の教員からなる指導グループが形成されます。1 年目の指導（講義の履修ガイダンスを含む）はこのグループの教員が行います。1 年目の終わりに、学生の希望（第 1 希望指導教員と第 2 希望指導教員）と成績を基に、2 年目の指導グループが選出されます。また、指導教員は、このグループから選出されます。希望の教員に指導してもらえない場合もありますのでご注意ください。

専修コースから博士後期課程への進学は不可

博士後期課程に進むには、研究者養成コースに転籍する必要があります。入学後のコース変更の機会は年 2 回設けられています。

リサーチ・ペーパー

「専修コース」では、修士論文に代わるものとして、「特定の課題についての研究の成果（リサーチ・ペーパー）」を課します。リサーチ・ペーパーには以下のような具体例が挙げられます。

サーベイ論文	内外の先行研究を取りまとめ、対象となるテーマについて、より広い視点から理解を深める。
実証分析	先行研究の手法を応用し、対象となる時期や、対象となる変数やデータを変える事で、従来の結果の妥当性の検証や拡張を行う。
フィールド・ワーク	先行研究に基づき、それに関連する実例を調べ、ケース・スタディーとして考察を加える。